

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196000119		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	坂戸東グループホームそよ風 1階		
所在地	埼玉県坂戸市中小坂781-4		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症のご利用者様に対して影響の大きい生活環境を、個々の生活スタイルに合わせ考慮する事を心掛けています。居室環境は個人の私物の持ち込みや家具の配置を出来る限り個々に合わせ、又、対応する職印も環境の一部と考えご利用者様の意思を尊重しながら、それぞれの病状、体調を考慮し対応しています。又、当ホームは地域とのつながりが強くあり、近隣の方達のご協力を得ながらの運営、行事においては、夏の納涼祭、冬のもちつき等ではご利用者様と一緒に職員も楽しみながら参加させて頂いています。食事においては、お祝い事などの赤飯、草餅、おこわ、手打ちうどん等職員が腕を振るってご利用者様にあった食事を提供しています。もちろんご利用者様も食維持作りに参加していただけます。明るく、元気に笑顔でご利用者様と職員、共に生活できるホームの運営をモットーに日々頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●虐待防止、身体拘束の廃止、コンプライアンス遵守、認知症への理解等、事業所内研修を実施しています。毎年度繰り返し学ぶことで知識の定着を図るよう努めており、あわせて他事業所への研修参加など積極的に知識研鑽に努めています。●散歩や行事など少しでも戸外活動が増えるようホーム全体での取り組みに注力しています。フリーマーケットへの訪問は利用者様に好評を博しており、皆で買い物を楽しむ機会となっています。●居室にはテレビやたんすが持ち込まれており、利用者それぞれの趣向を反映したレイアウトとなっています。見学者にホームでの生活がイメージしやすいようモデルルームを設定するなど工夫した取り組みがなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方たちとの共存を大切に、行事への参加、子供110番や運営推進会議での話し合いなど、地域の中に根差すホームを目標に運営している。	事業所独自の理念を掲示しており、方針や考えを共有しながら支援をするよう取り組んでいる。在籍の長い職員の尽力により利用者・家族との関係が構築されており、家庭とかわらぬ環境提供に努めている。	地域の方々にホームへの理解を深めてもらうため、特長を明確にし、わかりやすい言葉で発信していくことを目標としている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加、駐車場の貸出、トイレの解放を行う。公園、外気浴で出会った人には挨拶するなど交流をしている。また、近所の方たちより花や野菜を頂くり等大変お世話になっている。	隣接する公園に集う方々との交流など住宅街にある立地を最大限に活かした取り組みがなされている。また、中心となって作成した市内グループホームを紹介するパンフレットは、グループホームの認知度向上に役立てられている。	来年度、委託事業として介護教室の開催を予定しており、地域との交流を通じて地域貢献が実現することが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ボランティアの受け入れ等で理解を得てもらっている。公園の散歩、外気浴、地域行事の参加等で支援の方法を見てもらっている。今後は地域の認知症相談所としての役割を担っていける事を目標とする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議、又、各行事等の際に様々な事を報告、連絡相談しており、アドバイスを頂きそれを生かしている。又ホームでの状況報告をすることにより、地域の方の理解、支援を得られる様に努力している。地域包括への報告も含め今後連携していきたい。	行政、地域包括支援センター、民生委員の方々が参加し、定期で開催されている。行事や感染症予防などが議題としてとりあげられており、意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題等があれば、市役所へ連絡をいれ、又、グループホーム部会にて主に実情やサービスへの取り組みを伝えている。	行政、地域包括支援センターとは運営推進会議やグループホーム部会を通して関係を構築している。また法人内の他事業所との連携など、スケールメリットを活かした取り組みに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時、及び会議、又は日常の中で指導しており、スピーチロックを含めた身体拘束を行わない様、お互いが注意できる環境を心掛けている。身体拘束は現状は行っていない。	虐待防止、身体拘束の廃止、コンプライアンス遵守、認知症への理解等、事業所内研修を実施している。毎年度繰り返し学ぶことで知識の定着を図るよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の説明、又、常に会議等で議題に上げ、虐待防止、虐待が見過ごされる事のない様、注意を払い防止に努めている。又、全体会議などでお互いに注意し合える環境を作れるよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会を増やしていきたい。成年後見人制度を利用している方がおり、関係者と話し合っている。又日頃より個人に対しての尊重という部分で指導をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等については、十分な説明を行い、書類を持って帰って頂く場合もあり、理解納得して頂いてから、手続きを行っている。又、質問等も気軽に出来る様呼びかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会、行事に参加してもらう事で機会を設けており、頂いた意見、要望は会議にかけ、運営に反映できるよう努力している。面会時などにもこちらから呼びかけ、何かあれば気軽に話して頂ける様に呼びかけている。	利用者と家族が関係を維持できるようホーム全体でフォローしながら支援に努めている。より多くの家族に運営推進会議に出席してもらえるよう、行事と一緒に開催することを検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で意見、提案を出してもらい、反映させている。又、業務内、外でも聞く機会を設けられる様努力し、反映させられる様会議へ提案している。日常においても声を掛ける等して気軽に話せるよう雰囲気作りをこころ掛けている。	フロア会議・全体会議には非常勤職員にもなるべく出席してもらい、情報の共有に努めている。利用者の変化や留意事項を伝達し、ケアの統一が図られるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更改や人事考課時に職員の面談を行い、現時点での職員の状態教協の把握、又管理がどう思っているか、どうなってほしいかを伝え、お互いの思慮に差が無いように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業部レベルにて事業本部連携の研修をしている。介護は各ご利用者ごとに違う対応をしなければならない為、働きながらトレーニングできるよう、説明、実践してスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会にて、事例検討、勉強会、意見交換を行っている。部会を行う施設を毎回違う施設にする事で相互訪問をし、そこでの対応を参考にさせて頂いている場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活の中で、話している内容やご利用者の様子の中から、本人の困っている事、不安、要望等に耳を傾けている。ケアプラン更新時には、それを元に、意に沿えるよう努めている。又はカンファレンスにて皆で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と書面や対話(電話も含む)による情報の交換を行っている。初期だけでなく、面会時等、普段気付いたこと、新たな希望があるかその都度伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族の話を統合し、「その時」必要としている支援を見極め、どのようなサービスが必要なのか考えて選択している。訪問マッサージ等外部のサービス等、ご家族に希望があれば導入できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、人生経験からくる知識や技術を教えて頂き相互に助け合える、教えあえる関係を目指している。料理や買い物、普段の会話を通じて、お互いの認識を深め合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議やご家族様面会時、毎月の手紙などで、気軽に面会に来て頂けるようお伝えしている。又はそのような環境作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば電話をするなどして対応している。なじみの人からの電話面会も個人情報に注意したうえで対応している。	入居前からの嗜好については、なるべく継続できるよう支援にあたっている。また電話や面会についても後援し、家族や知人との関係が維持されるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置等により、関わり合い、支え合えるような支援をしている。必要な場合は職員が間に入り対応する事で円滑なコミュニケーションを図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話があったり、来所された時には話しを聞き、出来る事があれば相談に乗るなど対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との会話の中から、希望、意見、要望等を把握できるよう努めている。又、職員は自分だったらどうだろうとの視点を忘れないように努めている。	担当者会議での検討、アセスメントの実施を通して利用者の意向把握に努めており、利用者の思いをケアに反映すべく、支援の充実にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族に話しを伺ったり、又、ご本人との会話の中より、暮らしやすい生活環境をくみ取り把握し、日々改善に努めている。日常の会話中からも読み取れるようこちらから話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを行い、それぞれの職員から見た一面を総合的に判断し、ケアプランに生かしている。又はカンファレンス以外であってもノート等を使用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族と話し合い、意見交換をし、カンファレンス等で、現状に合っているか常に見極め、確認し、ケアプランの作成にあたっている。	利用者本人のできることを目標に盛り込んだ介護計画書の策定に取り組んでおり、金魚の餌やり・カレンダーのめくり・食事の盛り付けなど身近な目標を定め、利用者が生活の中で張りを持てるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活全般は生活支援記録の記入を行い、普段と違った行動の記録は申し送りノート、日誌に記入し書面に書き残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事への参加(餅つき、納涼祭)、又は普段の行事についても、ご本人様、ご家族様によるこんで頂けるよう考えている。		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の納涼際やもちつきに参加し、双方よりよい関係を築けるようにしている。どの行事にも代表区長、民生委員を通じて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診により、ご利用者の生活状態を報告している。又、何か異常のあった場合には、その事も連絡し適切な医療を受けられる様にしている。	往診、訪問歯科、訪問マッサージなど医療機関と連携し、利用者の健康維持に取り組んでいる。医療機関と家族の双方と連携し、適切な利用となるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護を行っており、各ご利用者の様子をじかに見て頂くようにしている。24時間つながる電話口があり、緊急の場合にはそちらに電話するようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族と同行し、説明を受け、又、可能な限り職員が面会を行い病院関係者に経過と、行った処置の内容を尋ね記録している。入院による、ご利用者の体力低下、認知症の進行を理解し、出来るだけ早期退院できるよう情報交換や、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化に関して、その都度ご家族に連絡し今後の方針を話し合っている。終末期に関しては、ご家族の要望を伺い、その意向をうかがっている。ご家族様に対しての精神的な面に関するもお力になれる様相談に乗っている。	協力医療機関、訪問看護事業者との連携をもって重度化と終末期の支援に取り組んでいる。利用者と家族の意向を重視し、最適な支援となるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の行動に関しては、手順を表にした物を勝手口周辺に張り、目につくようにしている。救命講習に参加する機会を作り、訓練を定期的に行えるよう準備をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い避難経路を全職員に確認してもらう事、又、避難方法を消防の指導を受ける事で身につけている。	夜間・火災を想定した避難訓練を実施しており、消防団に参加してもらうなど地域から心強い協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や全体会議での指導、又はその都度指導注意をしている。職員全体がお互いに注意し合える環境づくりをしている。又お客様を尊重しケアに当たる事を心がけている。	職員の気になる言動等については指導し、適切な支援となるよう努めている。利用者を尊重したケアの実践のため、日々配慮と検討に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意見を尊重するように努め、いくつかの選択肢を用意したり、疑問形、依頼形での尋ね方により自己決定の支援を心がけている。声掛けもその方の認知症の症状に合わせ、選択制にする等、カンファレンスをし話し合いケアにあっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせ、散歩、外気浴、レクへの参加を希望に沿ってお誘いしている。又ご利用者の生活スタイルに合った起床、就寝時間を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際などは、一緒に選ぶ又は、これで良いか尋ねる。意思疎通の困難な方は、家族に以前の好みをお伺いしている。こちらの選択のみにならぬ上注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人に合わせた食事作りを行っている。盛り付けなどの準備、片づけに関しては、出来る方に無理のない様行って頂いている。	野菜の皮むき、盛り付けなどできることをしてもらい、食事作りへの参加をサポートしている。訪問調査時には管理職のリードのもと、楽しい会話と笑顔に溢れた食卓となっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良のご利用者には違った形での補食を行い、その時に合わせた栄養補給が出来る様になっている。水分量も1日を通じて必要量が取れるよう、チェック表を活用し提供している。必要事はいりよに相談し、適切な対応をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立支援を考慮しケアにあっている。訪問歯科による指導指示により行っている。		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の利用にて、ご利用者の排泄パターンを考慮し行っている。介助に関しては、ご利用者の能力に支援方法を合わせ、必要物品、場所を考慮している。	排せつ表の確認・日々の観察等より、自然かつ自立を意識した支援がなされている。見守りについても自尊心とプライバシーに配慮するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を多く取り入れる、運動を促すなどし便秘予防に努めている。必要時には緩下剤にて調整している。タンパク質の補給を兼ね、きなこ牛乳を1日1回提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の体調、希望等を考慮し時間帯等を決めず行っている。入浴の際には会話等を多く取り入れ、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	時間を置く・途中でやめるなど利用者の意思を尊重した入浴支援を実施している。支援方法は、フロア会議等において都度振り返り、職員で共有しながら進めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活歴、又はその時の体調を考慮し、起床時間、食維持時間、就寝時間等を合わせている。又はその時にご本人様にお伺いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理指導書を確認する事、又は薬が変わった際は申し送りに記入する等して、職員全員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が生活の楽しみを見出せる様、嗜好品等を提供している。また、季節に合わせた行事をとり行っている。洗濯ものたたみ、食事作成盛り付けなど、生活での役割援助もできる様目標にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の際には、ご家族様にもお声を掛け、参加していただける様呼びかけている。運営推進会議、手紙でご報告を兼ね、お誘いしている。	散歩や行事など少しでも戸外活動が増えるよう取り組んでいる。フリーマーケットへの訪問は利用者に好評を博しており、皆で買い物を楽しむ機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで管理が必要な方は預り金にて、ご希望に沿えるよう買い物等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は在宅時間を見計らい行う様にしている。職員が取り次いで、ご家族の都合を確認してから行う様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓をを心がけ、清潔感を損なわないように清掃している。室温、光量も常に気にして、ご利用者が過ごしやすい環境を心がけている。	職員の声掛けによりリビングに集い、おやつを食べたり、おしゃべりをしたりと楽しいときを過ごせるよう取り組んでいる。温度・湿度にも配慮し、利用者が居心地よく過ごせる環境となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベートスペース、パブリックスペースの区別を心がけている。各フロアにソファを設置し、ご利用者同士の会話を楽しめるよう、生活空間の配慮を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と話し合いをし、使い慣れた物や好みの物を持ってきてもらっている。又は、現在の状況に応じ、使いやすい様、高さ、幅等を考慮し改善に努めている。	居室にはテレビやたんすが持ち込まれており、利用者それぞれの趣向を反映したレイアウトとなっている。見学者にホームでの生活がイメージしやすいようモデルルームを設定している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全バリアフリーになっている。一人一人の出来る事わかる事を、業務日誌、申し送りノートに記入し、自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196000119		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	坂戸東グループホームそよ風 2階		
所在地	埼玉県坂戸市中小坂781-4		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症のご利用者様に対して影響の大きい生活環境を、個々の生活スタイルに合わせ考慮する事を心掛けています。居室環境は個人の私物の持ち込みや家具の配置を出来る限り個々に合わせ、又、対応する職印も環境の一部と考えご利用者様の意思を尊重しながら、それぞれの病状、体調を考慮し対応しています。又、当ホームは地域とのつながりが強くあり、近隣の方達のご協力を得ながらの運営、行事においては、夏の納涼祭、冬のもちつき等ではご利用者様と一緒に職員も楽しみながら参加させて頂いています。食事においては、お祝い事などの赤飯、草餅、おこわ、手打ちうどん等職員が腕を振るってご利用者様にあった食事を提供しています。もちろんご利用者様も食維持作りに参加していただけます。明るく、元気に笑顔でご利用者様と職員、共に生活できるホームの運営をモットーに日々頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方たちとの共存を大切にし、行事への参加、子供110番や運営推進会議での話し合いなど、地域の中に根差すホームを目標に運営している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加、駐車場の貸出、トイレの解放を行う。公園、外気浴で出会った人には挨拶するなど交流をしている。また、近所の方たちより花や野菜を頂いたり等大変お世話になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ボランティアの受け入れ等で理解を得てもらっている。公園の散歩、外気浴、地域行事の参加等で支援の方法を見てもらっている。今後は地域の認知症相談所としての役割を担っていきける事を目標とする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議、又、各行事等の際に様々な事を報告、連絡相談しており、アドバイスを頂きそれを生かしている。又ホームでの状況報告をすることにより、地域の方の理解、支援を得られる様に努力している。地域包括への報告も含め今後連携していきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題等があれば、市役所へ連絡をいれ、又、グループホーム部会にて主に実情やサービスへの取り組みを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時、及び会議、又は日常の中で指導しており、スピーチロックを含めた身体拘束を行わない様、お互いが注意できる環境を心掛けています。身体拘束は現状は行っていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の説明、又、常に会議等で議題に上げ、虐待防止、虐待が見過ごされる事のない様、注意を払い防止に努めている。又、全体会議などでお互いに注意し合える環境を作れるよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会を増やしていきたい。成年後見人制度を利用している方がおり、関係者と話し合っている。又日頃より個人に対しての尊重という部分で指導をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等については、十分な説明を行い、書類を持って帰って頂く場合もあり、理解納得して頂いてから、手続きを行っている。又、質問等も気軽に出来る様呼びかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会、行事に参加してもらう事で機会を設けており、頂いた意見、要望は会議にかけ、運営に反映できるよう努力している。面会時などにもこちらから呼びかけ、何かあれば気軽に話して頂ける様に呼びかけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で意見、提案を出してもらい、反映させている。又、業務内、外でも聞く機会を設けられる様努力し、反映させられる様会議へ提案している。日常においても声を掛ける等して気軽に話せるよう雰囲気作りをこころ掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更改や人事考課時に職員の面談を行い、現時点での職員の状態教協の把握、又管理がどう思っているか、どうなってほしいかを伝え、お互いの思慮に差が無いように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業部レベルにて事業本部連携の研修をしている。介護は各ご利用者ごとに違う対応をしなければならない為、働きながらトレーニングできるように、説明、実践してスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会にて、事例検討、勉強会、意見交換を行っている。部会を行う施設を毎回違う施設にする事で相互訪問をし、そこでの対応を参考にさせてもらっている場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活の中で、話している内容やご利用者の様子の中から、本人の困っている事、不安、要望等に耳を傾けている。ケアプラン更新時には、それを元に、意に沿えるよう努めている。又はカンファレンスにて皆で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と書面や対話(電話も含む)による情報の交換を行っている。初期だけでなく、面会時等、普段気付いたこと、新たな希望があるかその都度伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族の話を統合し、「その時」必要としている支援を見極め、どのようなサービスが必要なのか考えて選択している。訪問メッセージ等外部のサービス等、ご家族に希望があれば導入できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、人生経験からくる知識や技術を教えて頂き相互に助け合える、教えあえる関係を目指している。料理や買い物、普段の会話を通じて、お互いの認識を深め合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議やご家族様面会時、毎月の手紙などで、気軽に面会に来て頂けるようお願いしている。又はそのような環境作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば電話をするなどして対応している。なじみの人からの電話面会も個人情報に注意したうえで対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置等により、関わり合い、支え合えるような支援をしている。必要な場合は職員が間に入り対応する事で円滑なコミュニケーションを図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話があったり、来所された時には話しを聞き、出来る事があれば相談に乗るなど対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との会話の中から、希望、意見、要望等を把握できるよう努めている。又、職員は自分だったらどうだろうとの視点を忘れないように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族に話しを伺ったり、又、ご本人との会話の中より、暮らしやすい生活環境をくみ取り把握し、日々改善に努めている。日常の会話中からも読み取れるようこちらから話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを行い、それぞれの職員から見た一面を総合的に判断し、ケアプランに生かしている。又はカンファレンス以外であってもノート等を使用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族と話し合い、意見交換をし、カンファレンス等で、現状に合っているか常に見極め、確認し、ケアプランの作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活全般は生活支援記録の記入を行い、普段と違った行動の記録は送りノート、日誌に記入し書面に書き残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事への参加(餅つき、納涼祭)、又は普段の行事についても、ご本人様、ご家族様によるこんで頂けるよう考えている。		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の納涼際やもちつきに参加し、双方よりよい関係を築けるようにしている。どの行事にも代表区長、民生委員を通じて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診により、ご利用者の生活状態を報告している。又、何か異常のあった場合には、その事も連絡し適切な医療を受けられる様にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護を行っており、各ご利用者の様子をじかに見て頂くようにしている。24時間つながる電話口があり、緊急の場合にはそちらに電話するようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族と同行し、説明を受け、又、可能な限り職員が面会を行い病院関係者に経過と、行った処置の内容を尋ね記録している。入院による、ご利用者の体力低下、認知症の進行を理解し、出来るだけ早期退院できるよう情報交換や、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化に関して、その都度ご家族に連絡し今後の方針を話し合っている。終末期に関しては、ご家族の要望を伺い、その意向をうかがっている。ご家族様に対しての精神的な面に関してもお力になれる様相談に乗っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の行動に関しては、手順を表にした物を勝手口周辺に張り、目につくようにしている。救命講習に参加する機会を作り、訓練を定期的に行えるよう準備をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い避難経路を全職員に確認してもらう事、又、避難方法を消防の指導を受ける事で身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や全体会議での指導、又はその都度指導注意をしている。職員全体がお互いに注意し合える環境づくりをしている。又お客様を尊重しケアに当たる事を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意見を尊重するように努め、いくつかの選択肢を用意したり、疑問形、依頼形での尋ね方により自己決定の支援を心がけている。声掛けもその方の認知症の症状に合わせ、選択制にする等、カンファレンスをし話し合いケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせ、散歩、外気浴、レクへの参加を希望に沿ってお誘いしている。又ご利用者の生活スタイルに合った起床、就寝時間を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際などは、一緒に選ぶ又は、これで良いか尋ねる。意思疎通の困難な方は、家族に以前の好みをお伺いしている。こちらの選択のみにならぬ上注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人に合わせた食事作りを行っている。盛り付けなどの準備、片づけに関しては、出来る方に無理のない様行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良のご利用者には違った形での補食を行い、その時に合わせた栄養補給が出来る様になっている。水分量も1日を通じて必要量が取れるよう、チェック表を活用し提供している。必要事はいりよに相談し、適切な対応をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立支援を考慮しケアにあたっている。訪問歯科による指導指示により行っている。		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の利用にて、ご利用者の排泄パターンを考慮し行っている。介助に関しては、ご利用者の能力に支援方法を合わせ、必要物品、場所を考慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を多く取り入れる、運動を促すなどし便秘予防に努めている。必要時には緩下剤にて調整している。タンパク質の補給を兼ね、きなこ牛乳を1日1回提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の体調、希望等を考慮し時間帯等を決めず行っている。入浴の際には会話等を多く取り入れ、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活歴、又はその時の体調を考慮し、起床時間、食維持時間、就寝時間等を合わせている。又はその時にご本人様にお伺いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理指導書を確認する事、又は薬が変わった際は申し送りに記入する等して、職員全員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が生活の楽しみを見出せる様、嗜好品等を提供している。また、季節に合わせた行事をとり行っている。洗濯ものたたみ、食事作成盛り付けなど、生活での役割援助もできる様目標にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の際には、ご家族様にもお声を掛け、参加していただける様呼びかけている。運営推進会議、手紙でご報告を兼ね、お誘いしている。		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで管理が必要な方は預り金にて、ご希望に沿えるよう買い物等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は在宅時間を見計らい行う様にしている。職員が取り次いで、ご家族の都合を確認してから行う様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓をを心がけ、清潔感を損なわないように清掃している。室温、光量も常に気にして、ご利用者が過ごしやすい環境を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベートスペース、パブリックスペースの区別を心がけている。各フロアにソファを設置し、ご利用者同士の会話を楽しめるよう、生活空間の配慮を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と話し合いをし、使い慣れた物や好みの物を持ってきてもらっている。又は、現在の状況に応じ、使いやすい様、高さ、幅等を考慮し改善に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全バリアフリーになっている。一人一人の出来る事わかる事を、業務日誌、申し送りノートに記入し、自立した生活が送れるよう工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域の方々にホームの理解を深めてもらう為、特長を明確に分かりやすい言葉で発信していく事を目標としている。	地域の方々に坂戸東グループホームそよ風を知って頂き、身近な存在として感じられる様努力する。	・坂戸東グループホームそよ風のチラシを作成し、近隣の居宅介護支援事業者、又家族へ配布する。 ・地域行事に積極的に参加する。	12ヶ月
2	2	来年度、委託事業として介護教室の開催を予定しており、地域との交流を通じて地域貢献を実施することが期待される。	介護教室を通じ、新しいグループホームの存在意義を見出す。	・介護教室の開催。 ・地域の介護相談所としての役割を担う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。